

全国学力学習状況調査の結果について

平成 30 年 10 月 3 日
札幌市立平岸西小学校
校長 山本 秀夫

4月17日に6年生に実施した『全国学力学習状況調査』の結果が明らかになりましたので、お知らせします。国語、算数、理科で、出題された各問題の平均正答率から、《本校の概要》と《今回の調査における課題》を挙げるとともに、今後の指導のための《改善の方向》をまとめています。また、本調査結果は、本校での6年間の積み上げとしての姿ととらえ、学校改善に向けた大切な基礎資料として生かしていきます。

尚、問題 A は、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを、問題 B は、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを調査しています。

【国語】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

「話すこと・聞くこと」

- ・全国平均と同程度であるがやや上回っている。

「読むこと」

- ・全国平均と同程度である。
- ・登場人物の心情を、情景描写からとらえる力が、全国平均よりもやや上回る。

「書くこと」・「言語事項」

- ・全国平均を下回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

「話すこと聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」

- ・全国平均を下回っている。
- ・他のものと比較して、良さを伝える文書を書く力は、全国平均をやや上回っている。

■自分の伝えたいことを、文章全体の構成の効果を考えながら記述すること。

■既習の漢字をしっかりと身に付けること。

■目的に応じて、文章の内容を的確にとらえ、自分の考えと比較しながら読むこと。

☆表現意欲を高め、相手に伝えることを大切にしながら、段落構成を意識した作文指導を大切にしていく。

☆漢字を調べる方法を身に付けるとともに、様々な活動の場で、積極的に漢字を使うように指導する。

☆読書の幅を広げるよう指導するとともに、子ども一人一人の言葉へのこだわりを生かし、読み取りを多面的に深めていく学習を重視する。

読解力の低下が指摘されています。体験不足やコミュニケーション力の低下が、大きな原因だと考えられています。書かれていることの情景や関係性が、読み取れないのです。本校の課題でもあります。全教科で文章の意味内容を大切に、指導していきます。

【算 数】

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

「数量関係」・「量と測定」

- ・全国平均を同程度である。
- ・百分率など割合にかかわる理解は、全国平均よりも上回る。
- ・折れ線グラフ等から、変化の特徴を読み取る力は、全国平均よりも上回る。

「数と計算」・「図形」

- ・全国平均を下回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

「数量関係」・「量と測定」・ 「数と計算」・「図形」

- ・全国平均を下回っている。
- ・棒グラフや帯グラフから、目的に応じて情報を読み取る力は、全国平均よりも上回る。

今回の調査における課題

■様々な公式や乗法・除法などの意味理解および、活用すること。

■様々な図形の構成要素に着目し、決まりを見つけたり、見つけた決まりを活用したりすること。

■問題解決へ向けて、与えられた条件に合うように、複数の情報を関連付け、論理的に思考すること。

改善の方向

☆数直線や図などを用い、具体的な操作活動を重視した問題解決的な学習を数多く経験するようにする。

☆図形描画・切る・貼る・並べるなどの具体的な操作活動を重視した問題解決的な学習を数多く経験するようにする。

☆問題解決に向けて、様々な条件の下で、いろいろな情報を関連付けながら思考する授業を重視する。

意味理解を大切に!

今回の調査の中で、本校も含め札幌市の子どもたちの課題として見えてきたことは、「意味理解」を大切にしていかなければならないということです。子どもたちに結果を求めるあまり、「問題が解けること」「正しい答えが出せること」に力を注いできたという側面があるように考えます。しかし、「問題が解けること」と同様に、大切にしていかなければならないことは、「なぜそのやり方で問題が解けるのか」「公式には、こんな意味が隠されている」という意味理解です。

算数で言えば、長方形の面積の求め方は「縦×横」という公式を覚えることも大切です。しかしそれ以上に、1 cm×1 cmの正方形が、縦に何個、横に何列並んでいるかを考えることが大切です。このような意味理解がしっかりできていれば、「縦×横」「横×縦」のどちらでもいいのです。そして、意味理解ができているからこそ、三角形や円の面積の求め方へと発展させていけるのです。

学校の決まりも同じです。「廊下を走ってはいけない」という決まりを守ることも大切ですが、「なぜ、そのような決まりが必要なのか」と決まりの意味を考え、その上で自分を律することが大切なのです。

勉強も生活も、意味理解を大切にしていきたいものですね。

【理 科】

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

「物質」

- ・全国平均よりも上回る。
- ・得られた実験結果を根拠に、どんなことが言えるのかを考える力は、全国平均よりも上回る。

「エネルギー」

- ・全国平均を下回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

「生命」・「地球」

- ・全国平均を下回っている。
- ・流れる水の働きと、実験結果を結びつけて考える力は、全国平均よりもやや上回る。

今回の調査における課題

■一つの実験結果から得られた事実をもとに、他の物へ適用したり応用したりすること。

■より妥当な考えを作り出すために、複数の実験結果や情報を関連付けて考えること。

改善の方向

☆実験の結果を求めることより、結果を解釈し何が言えるのかを明確にすることと、他の物に適用することができるのかを問う学習を重視する。

☆安易に結論を導き出すのではなく、観察方法や実験方法を工夫したり、そこから得られた情報を関連付けたり、より多面的な問題解決に向かう授業を重視する。

体験的活動を大切に!

子どもは体験を通して言葉を獲得していきます。サッカーボールを触ったり、投げたり、転がしたりすることで、固有名詞的な意味合いで、「サッカーボール」という言葉を獲得します。そして、多くのサッカーボールに出会うことで一般化したり、テニスボールやバレーボールなどと触れ合うことで形としての「ボール」を認識したりしていくのです。つまり、言葉の意味理解には、体験が欠かせません。体験を通して獲得した言葉や知識は、子どもにとって意味を伴っていますから、生きて働く力となります。子どもの学びには、体験は欠かせないのです。

ですから、子どもの自然体験や社会体験の不足が叫ばれている昨今、意図的に体験を組み入れていくことが大切となります。学校においても具体操作活動、見学調査活動やインタビュー活動、実験や観察活動など、意図的に体験的活動を取り入れ、子どもの学びを豊かにしていくことを目指します。

ご家庭におかれましても、機会を見つけて海や山へ出かけたり、地域のボランティア活動等に参加したりするなど、自然体験や社会体験を積むことを大切にいただけたらと思います。